



# 第65回春季日本歯周病学会学術大会

テーマ：「歯周病学クロニクル ―そして我々はどこに向かうのか―」

会期：2022年6月3日(金)、4日(土)

場所：京王プラザホテル

大会長：佐藤 秀一 先生(日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座 教授)

学会2日目

土

日時

2022年6月4日 12:10 ▶ 13:00

現地開催のみ

場所

A会場

京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

本館  
5F

コンコード  
ABC

ランチョンセミナーI

## 歯周組織再生療法を 成功に導くために

—リグロス®発売後5年の臨床実感—

座長

鶴見大学歯学部 歯周病学講座 教授

五味 一博 先生

演者

医療法人尚志会 林歯科医院 院長

林 尚史 先生

本セミナーは整理券制です。

- 当日8:00より、本館5F A会場(コンコード)前ロビーにて整理券の配布を予定しております。
- セミナー開始後、5分を過ぎてもご来場されない場合は、お弁当の引き換えができかねますので、予めご了承ください。

共催：第65回春季日本歯周病学会学術大会 / 科研製薬株式会社

# 歯周組織再生療法を 成功に導くために

— リグロス® 発売後5年の臨床実感 —

医療法人尚志会 林 尚史 先生  
林歯科医院 院長



## ご略歴

1988年 九州歯科大学 卒業  
1992年 医療法人尚志会 林歯科医院 開業 2001年 愛知学院大学 非常勤助教  
2015年 愛知学院大学 歯学博士  
日本歯周病学会 指導医・専門医 日本臨床歯周病学会 指導医・認定医  
日本口腔インプラント学会 専門医 第61回秋季日本歯周病学会 最優秀臨床ポスター賞

日々の臨床の中で歯周病に罹患した患者さんは非常に多く、毎日その治療とメインテナンスに忙殺されています。そして歯周病の治療は確立して軽度から中等度の歯周病の多くは歯周基本治療のみで炎症の改善や歯周ポケットの減少がみられ、歯周病の安定化が可能です。しかし中等度以上に進行した歯周病の一部、特に垂直性骨欠損や根分岐部病変を有する場合などでは歯周基本治療のみで改善が難しい症例も多く存在します。歯周治療の理想的な治療は、失われた歯周組織の構造と機能を完全に回復することです。

従来より進行した歯周病の治療には歯周組織再生療法が用いられてきました。骨移植術やGTR法、エナメル基質蛋白による歯周組織再生療法が行われてきて一定の成果や歯周組織の再生を達成しています。しかし従来の方法では、テクニックセンシティブであったり、動物由来製剤への問題、保険適用がないことなどがあり使用への躊躇や使い勝手の悪さなどがありました。2016年9月に遺伝子組換えヒト型塩基性線維芽細胞成長因子(bFGF)製剤「リグロス®」の製造販売承認があり、2016年12月より販売開始され2017年2月より我々一般の臨床家でも使用が可能になり、歯周組織再生療法がより身近なものになりました。

「リグロス®」の適応症は歯周基本治療終了後、歯周ポケットの深さ4mm以上、骨欠損の深さ3mm以上の垂直性骨欠損がある場合となっていて、比較的適応症例も多く存在します。そして何よりも健康保険適用されたことにより患者さんは健康保険を使って増殖因子製剤を用いた歯周組織再生治療を受けられるようになりました。リグロス®の使用方法は比較的簡便で、今まで他の歯周組織再生療法を行ってきたものや歯周外科手術を行ってきたものにとってはより取り組みやすい術式であるといえます。リグロス®の利点として、歯周外科時に徹底的にデブライメントした根面に骨欠損部を満たす量を塗布するだけでよいこと、健康保険適用により患者負担が少ないこと、製剤が化学的に合成されたものであること、適応症例が多いこと、複数歯にも適用しやすいことなどがあげられ、結果患者さんに勧めやすい術式といえます。我が国における標準医療の一つとして歯周組織再生療法が広く一般の臨床家に広まりつつあると思います。

とはいえリグロス®は魔法の薬ではなく、塗るだけで歯周組織が再生するものではありません。同じように歯周外科処置を行いリグロス®を用いてもその結果は様々です。発売から5年以上経過して有効性や安全性など症例数が増える上でわかってきた臨床実感など、少しでも予知性を高めるために普段からどのような点に注意を払って使用しているかについて、臨床例を踏まえながら症例の選択、使用時のポイントや長期経過症例さらにはうまくいかなかった症例にも触れてみたいと考えています。今回限られた時間の中で改めて整理し様々な臨床例を供覧して頂き皆様とともに如何に成功に導くかを検討してみたいと思います。

そしてこのセミナーを通じてリグロス®を用いた再生療法がますます発展していくきっかけになれば幸いです。

## Drug Information

●詳細は添付文書をご参照ください。「禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意ください。

### 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者  
[本剤が細胞増殖促進作用を有するため]

【効能・効果】 歯周炎による歯槽骨の欠損

#### 〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1. 本剤は、歯周ポケットの深さが4mm以上、骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損がある場合に使用すること。
2. 本剤は、インプラント治療に関する有効性及び安全性は確立していない。

【用法・用量】 歯肉剥離掻爬手術時に歯槽骨欠損部を満たす量を塗布する。

#### 〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

本剤の使用にあたっては【臨床成績】の項を参照し適切な量を用いること。

【承認条件】 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

### 【使用上の注意】<抜粋>

#### 1. 重要な基本的注意

- (1)本剤は歯周外科手術の経験のある歯科医師又は医師が使用すること。
- (2)術後に歯肉弁の著しい陥凹を生じると予想される骨欠損部位に対しては、他の適切な治療法を考慮すること。

#### 2. 副作用

本剤が投与された安全性評価対象症例429例中3例(0.7%)に副作用が認められた。その内訳は、適用部位における歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹および頭痛が各1例(0.2%)であった。臨床検査値異常は429例中51例(11.9%)に認められ、その主なものは尿中アルブミン陽性27例(6.3%)、尿中β<sub>2</sub>ミクログロブリン上昇17例(4.0%)、尿中NAG上昇16例(3.7%)、CRP上昇6例(1.4%)等であった。

分類	頻度	1%以上	1%未満	頻度不明
適用部位および適用部位近傍			歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹	硬結、肥厚
精神神経系			頭痛	
臨床検査		尿中アルブミン陽性、尿中β <sub>2</sub> ミクログロブリン上昇、尿中NAG上昇、CRP上昇	AST(GOT)上昇、ビリルビン上昇、CK(CPK)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH上昇、尿糖陽性、リンパ球増多、好中球減少、単球増多、白血球減少、総蛋白上昇	

●その他の使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

歯周組織再生剤

薬価基準収載

**リグロス®** 歯科用液キット 600μg/1200μg

REGROTH® Dental Kit 600μg/1200μg トラフェルミン (遺伝子組換え) 製剤

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

製造販売元  
(文献請求先)



科研製薬株式会社  
東京都文京区本駒込2丁目28-8  
医薬品情報サービス室

2021年2月改訂(第5版)